

令和4年度 滝野中学校 学校評価
令和4年度 滝野中学校 学校評価

() は昨年度

評価の観点	評価項目	実践目標・成果・課題と方策	教職員	生徒	保護者	
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識技能の定着	実践目標	基礎的・基本的な知識技能の定着を図るための工夫改善を行う。	3.00		
		成果	・「聞き方・話し方」と「見通しホワイトボード」を活用して、授業スタイルの統一に全校で取り組んだ。 ・習熟度別クラスで個々のレベルにあった授業ができた。			
		課題と方策	・力の定着が不十分で課題テスト等まとめのテストになると成果が出せない。日々の復習や振り返りを丁寧に行い、学力の定着を図る。 ・学ぶ意識が弱い生徒に根気強く声をかけながら、個に応じた指導、意欲を喚起する授業づくりにも努める。			
			(3.29)			
	主体的・対話的で深い学びの実現	実践目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。	2.88		
		成果	・グループワークや意見交流を積極的に行った。問いかけを数多く用いることで生徒自ら考える機会をたくさん作れた。 ・タブレットも活用しながら、生徒から発信する授業展開を試みた。			
		課題と方策	・発言する生徒が偏り話し合いが一方的になったり、私語をする生徒がいる。学習規律を整え、ねらいに沿った学習の深まりにつなげることを確認しながら、直接顔を向かい合わせて議論したり意見を言い合ったりする学習活動を積極的に取り入れる。 ・生徒の主体的な学習のために、まず教師自身が主体的に楽しく工夫して授業に取り組む。			
		教師(学校)	は、ペアやグループでの学習や話し合い活動を取り入れたり、より深く考えたりするような授業をしている。			
	UDの視点を取り入れた「わかる・できる」授業の推進	実践目標	「ねらい」「授業の流れ」を明確にし「ふりかえり」を活用し、だれもがわかりやすい授業を工夫する。	3.04		
		成果	・見通しマグネットを活用し、めあてや流れを提示して授業できた。 ・ねらいを明確化することですっきりした授業になり、生徒の行動も良くなった。振り返りにより、今まで気づかなかった生徒の「気づき」を知ることができた。			
		課題と方策	・ねらいの明示、学習の流れに時間表示を追加するなどさらに可視化の工夫をする。 ・基礎学力の向上・定着のため、振り返りの仕方を工夫する。			
		教師(学校)	は、「ねらい」や「ふりかえり」のある、生徒みんながわかりやすい授業を工夫している。			
タブレットPC等のICTの効果的な活用	実践目標	ねらいに迫り、共有化を意識した授業実践のため、ICTを効果的に活用する。	3.08			
	成果	・ICTを活用し、Googleのアプリや、パワーポイントなどで視覚的な補助ができた。復習にミライードを活用した。 ・図や資料を見せる際には、クラスルームを使用して共有し、考えを深める学習を進めることができた。				
	課題と方策	・生徒がICTを活用して活動する機会がまだ少ないので、効果的に取り入れていく。 ・効果的な活用場面・活用方法を研修し、教師のICT活用能力の向上を図る。				
	教師(学校)	は、ICT機器やタブレットを効果的に取り入れた授業づくりに取り組んでいる。				(3.05)
豊かな心の育成	道徳教育の充実	実践目標	他者や自己との対話のある授業づくりを意識して行う。	3.00		
		成果	・グループや席の近い生徒同士で意見交換し、他者と比べながら自分の考えを高めることができた。 ・学年教師で授業の流れや発問を練って授業に臨み、生徒の多様な意見を引き出したり、考えさせたりすることができた。			
		課題と方策	・深く考え、意義のある話し合い活動になるように、発問や対話的な場面を考慮するなどしていく必要がある。 ・良い授業を共有するなど、学年をこえて授業づくりの交流を図りたい。			
		教師(学校)	は、道徳の時間に、自分でしっかり考え、みんなの意見を聞いたり、意見交流をしたりする場面のある授業をしている。			
	人権教育や共生教育の充実	実践目標	多様な価値観の尊重や生命尊厳を基盤にした人権教育や共生教育を実践する。	2.88		
		成果	・授業や日々の生徒同士の関わり等の場面で、「自分と違ういろんな価値観を大切にさせる」ための声掛けや指導を意識して行った。			
		課題と方策	・授業での計画的な取組に加え、授業以外の場面で、どれだけ人権教育や共生教育に触れた指導ができるかが大切である。しっかりとじっくり論じたり語ったりする機会を大切にしたい。			
		先生(学校)	は、生徒一人一人を大切に、みんながともに学べるように取り組んでいる。			
	キャリア教育・体験活動の推進	実践目標	自己有用感やふるさと意識を向上し、地域や人とのつながりを感じられるキャリア教育や体験活動を計画・実施する。	2.68		
		成果	・1年人権学習や防災学習で地域に出向き、地域と連携して学習に取り組んだ。 ・トライやるウィークを通して、地域社会と関わり、地元に対する愛情や自己肯定感が高まった。			
		課題と方策	・地域や人とのつながりを感じられる活動や継続した体験活動の取組を推進したい。 ・総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し、精査が必要である。			
		先生(学校)	は、生徒が満足し、地域・保護者とのつながりを感じられる行事や体験活動を計画・実施している。			
健やかな体の育成	運動習慣の定着と体力・運動能力の向上	実践目標	運動習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る取組をする。	2.84		
		成果	・部活動で基礎的な技術や体力が身に着いた。			
		課題と方策	・体力の低下に起因する負傷が増えたと感じる。部活動では、時間制限があり十分な体力や運動能力の向上が難しくなっている。運動習慣や運動能力の向上を図るための基礎トレーニングや体幹の鍛え方などの効果的な方法を実践していく時間が必要である。			
		教師(学校)	は、生徒の体力や運動能力を向上させたり、運動習慣を定着させたりする指導をしている。			
	部活動の充実	実践目標	生徒の主体性や対話を重視した部活動の運営を行う。	3.20		
		成果	・生徒と積極的に話をしたり、生徒自身が練習メニューを考えたりするなど、主体性を大切にしたい指導をしている。 ・部活動を頑張りたいという生徒がたくさんいる。			
		課題と方策	・生徒の主体性を育てるため、生徒自身が考え、行動する場面を意識的に取り入れていく。 ・活動に対する意欲の二極化が大きく、部としての運営が難しい。対話を重視した活動をめざし、交流を深めていく。			
		教師(学校)	は、部活動で生徒の主体性ややる気を大切にしたい指導をしている。			
	健康教育・食育の推進	実践目標	各教科等において、自己管理能力の育成に向けた食育や健康教育を意識した取組をする。	2.36		
		成果	・地域と連携して、心肺蘇生講習会、食育授業、薬物乱用防止教室を行った。 ・SCを活用して、ストレスマネジメントの授業を行った。			
		課題と方策	・性教育や保健教育を含めた健康教育、食育を、教科指導と連携して計画的に実践するために、年間指導計画の見直しを行う。			
		教師(学校)	は、授業や学校生活、HR、通信などで、健康的な食生活や規則正しい生活について指導している。			

組織的な生徒指導の推進	組織的な指導・支援の徹底	実践目標	共感的生徒理解に基づき、主体性や自律心、規範意識を育成するために、組織的で粘り強い指導・支援を行う。	3.00		
		成果	・教師の様々な立場からのアプローチを生かしながら、互いに情報交換や複数指導をするなど、組織的に取り組めた。 ・生徒との対話を増やし、指導の際には自分の行動について生徒自身に考えさせるように取り組んだことで、集団に落ち着きが生まれてきた。			
		課題と方策	・規範意識・自己肯定感の向上のため、生徒から点検活動等を発案し実行するなど、生徒主体の取組を促す。 ・指導が各教師の判断に委ねられている部分がある。指導・支援の方針や基準、方向性の確認・統一を徹底する。			
		教師（学校）	は、生徒が自分たちで進んで正しく行動できるようになるために、考えたり取り組んだりする機会を設けるなど、指導・支援している。			
	開発的・予防的指導と問題の早期発見・早期対応の徹底	実践目標	つながりを大切に開発的・予防的指導を行い、問題の早期発見、早期対応の徹底を図る。	3.24		
		成果	・生徒との会話や教育相談、フリーカードなどからの情報を共有し、問題の早期発見早期対応を行った。 ・問題の早期発見、早期対応を目指した取組により、安心感のある学年集団になってきている。			
		課題と方策	・開発的・予防的指導についての研修を行い、効果的、計画的な指導を推進する。			
	教師（学校）	は、デートDV、薬物乱用防止教室、情報モラル講演会、ストレス講座など、様々な問題について考える機会を作っている。	(2.77)	3.39 (3.45)	3.17 (2.94)	
	危機管理意識の向上と教育相談体制の充実	実践目標	日常的に危機意識を持って対応し、定期的なアンケートや教育相談の実施により、相談体制を整える。	3.48		
		成果	・毎月のアンケート実施、毎学期の教育相談などを通して生徒の心情理解に努め、情報共有し対応した。 ・担任だけでなく副担任も教育相談に加わったことで、困っている生徒をより多くの教師で見守り支援できた。			
		課題と方策	・事案把握後の対応や記録、情報共有を迅速に行い、全教職員の手で適切な指導に生かす。			
		教師（学校）	は、生活実態調査やフリーカード、教育相談などで、生徒の悩みを聞いてくれる。			
SC・SSW、関係機関との連携の強化	実践目標	SCやSSWを含めた校内生徒支援体制の充実と福祉・医療機関等との積極的な行動連携を図る。	3.32			
	成果	・SC、SSWとの連携を図り、相談できる体制がとれている。 ・生徒・保護者の状況に応じて、福祉・医療機関と連携できた。				
	課題と方策	・不登校や別室登校、悩みを抱えた生徒・保護者が相談しやすいような情報を提供する。 ・学校全体でもっと密に情報共有をし、関係機関とも連携して、必要な支援が適切に行えるように努める。				
	教師（学校）	は、学校の先生だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門の先生との教育相談の機会を設けている。				
命の教育、情報モラル教育の推進	実践目標	自殺予防、ネットトラブル未然防止に向けた取組を行う。	2.76			
	成果	・タブレットの使い方について指導し、改善ができた。 ・不安を抱えている生徒への見守りや声掛けは、担当教師だけでなく学校全体で取り組んでいる。				
	課題と方策	・家庭でのSNS使用の時間が非常に長い。保護者とも連携し、使い方や時間について考えさせる必要がある。 ・生徒のネット環境やSNSのモラルが心配である。折に触れて指導する機会を持つ。				
	教師（学校）	は、ネットトラブルを防ぐために、情報モラルの学習をしたり、SNS上の困ったことの相談に乗ったりするなど、指導している。				
小中一貫教育の推進	9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導の充実	実践目標	9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導、カリキュラムの実践を行う。	2.32		
		成果	・小学校で学んだことを復習や導入で取り入れたりするなど、小中のつながりを意識した取組を進められた。 ・出前授業を通して、小中教員がともに授業づくりや指導方法、児童生徒の状況について研修する機会が持てた。			
		課題と方策	・小中の連携・交流を推進するため、小中で相互に授業参観をするなど、教職員の研修の機会を持つ。 ・小学校での既習事項を生かした指導をするために、小学校の教科書の活用や情報交換を積極的に行う。			
	教師（学校）	は、ネットトラブルを防ぐために、情報モラルの学習をしたり、SNS上の困ったことの相談に乗ったりするなど、指導している。	(2.86)	3.26 (3.31)	3.08 (3.02)	
9年間を見通した生活・学習習慣づくりの推進	実践目標	9年間を見通した生活・学習習慣を意識した取組を行う。	2.24			
	成果	・小中一貫校開校にむけて、生活の約束等の共通理解に取り組んだ。 ・聞き方・話し方について、小学校での指導を考慮して取組を計画した。				
	課題と方策	・校則や家庭学習等のすりあわせを進める。				
	教師（学校）	は、学習習慣や話し方・聞き方、家庭学習の定着のための指導やアドバイスをしている。				
ふるさと学習「かとう学」の推進	実践目標	「かとう学」を用いた学習を行う。	1.92			
	成果	・「かとう学」を用いた授業実践に取り組んだ。				
	課題と方策	・教科での活用場面や、総合的な学習の時間などでの計画的な活用方法を検討する。				
	教師（学校）	は、「かとう学」を活用したり、ふるさと加東市を題材に用いたりした学習を取り入れている。				
縦・横の連携を図った連続性及び連携のある特別支援教育の充実	実践目標	縦横の連携を図った連続性及び連携を意識して特別支援教育の取組を行う。	2.80			
	成果	・教師同士の連絡体制を密にすることで、生徒理解が深まった。 ・小学校や保護者とも情報交換を丁寧に行い、連携した支援に努めた。				
	課題と方策	・縦のつながりが成長につながるため、異学年での交流授業がある方がよい。 ・縦横の連携を図った特別支援教育のありかた、サポートファイルの活用について、研修を深める。				
	教師（学校）	は、学習習慣や話し方・聞き方、家庭学習の定着のための指導やアドバイスをしている。				
生徒一人一人の生活背景や内面理解に基づいた居場所づくりと個性や能力の伸長	実践目標	生徒一人一人の生活背景や内面理解に努め、居場所づくりや個を生かす指導を行う。	3.20			
	成果	・学級や部活動での温かい居場所づくりに意識して取り組んだ。個々の生徒との会話を通して内面理解や背景把握にも努めた。 ・別室や保健室では、共感的理解に基づく居場所づくりと個に応じた支援ができた。				
	課題と方策	・学年団を中心に、居場所づくりを目標に取り組んだが、個を生かすまで高めるための継続した取組が必要である。 ・すべての生徒に対応できるように努める。				
	教師（学校）	は、生徒を理解し、一人一人の生徒に寄り添った指導をしている。				
不登校を生まない学級づくりと個に応じた支援の充実	実践目標	個に応じた支援に努め、不登校を生まない学級づくりに取り組む。	2.92			
	成果	・一人一人の個性を把握し、認め合う集団づくりに意識して取り組めた。 ・保護者と連絡をとりあい、協力して取り組んだ。行事や生徒の興味、得意なことを生かしながら行動の目標を立てるなど、欠席が連続にならないよう働きかけた。				
	課題と方策	・保護者や関係機関との連携を強化し、目標を明確化しながら個に応じた支援に努める。 ・学級生徒の働きかけ等、生徒同士のつながりを深める。				
	教師（学校）	は、生徒の活躍の場を設け、つながりのある集団（学級・学年・学校）を作ろうとしている。				
教師（学校）	は、ネットトラブルを防ぐために、情報モラルの学習をしたり、SNS上の困ったことの相談に乗ったりするなど、指導している。	(2.86)	3.38 (3.36)	3.28 (3.26)		

落ち着いた環境づくり	命を守り抜くための安全教育の推進	実践目標	交通安全教室・防災訓練・防災教育を計画的に実施する。	3.28		
		成果	・登下校の安全指導を継続して行った。 ・気象災害を想定した防災学習・防災訓練に取り組んだ。専門家から話を聞く機会を通して「備える」意識が高まった。			
		課題と方策	・並列通行の禁止、不審者対応訓練等、登下校時の安全指導の徹底が必要である。 ・防災教育推進のため、今後の防災学習計画について検討する。避難訓練についても効果的な工夫を取り入れる。			
		教師（学校）	は、生徒の安全安心を守るために、安全指導や交通立ち番、防災訓練等を行っている。			
			(2.95)	3.51 (3.45)	3.44 (3.23)	
	さわやかな挨拶と時間の厳守、学習規律、主体的な清掃活動の徹底	実践目標	さわやかな挨拶、時間厳守、清掃活動、学習規律の徹底を図る。	2.72		
		成果	・学年集会や行事に向けての取組等を通して、生徒主体となるように取り組み、継続した取組が少しずつ効果につながった。			
		課題と方策	・規律の乱れに対しては、教職員が共通理解をし、同じ歩調で指導にあたる。また、家庭とも協力して改善に向けて取り組む。 ・挨拶週間など生徒会中心の取組や、部活動での呼びかけを学校生活面に広げていくなど、生徒主体の取組を促す。			
		教師（学校）	は、挨拶、清掃、時間や授業態度など節度ある生活について指導するとともに、自らも率先垂範に努めている。			
			(2.82)	3.40 (3.33)	3.25 (3.11)	
	通学路や施設・設備の定期的な安全点検の徹底	実践目標	通学路や施設・設備の定期的な安全点検を実施する。	2.72		
		成果	・定期的な施設・設備の安全点検、通学路の再確認を行った。			
課題と方策		・立ち番や巡回など、交通事故防止のための対策や点検の徹底が必要である。 ・校内の修理箇所を含め、安全点検を確実にを行う。				
教師（学校）		は、安全な学校生活が送れるように、学校の施設設備の保守点検を行っている。				
		(2.91)	3.26 (3.30)	3.29 (3.37)		
積極的な情報発信による「地域とともにある学校」づくりの推進	実践目標	家庭・地域に積極的に情報発信し、連携協働する。	2.88			
	成果	・学校通信、学年通信、学級通信などにより情報発信に努めた。保護者メール配信などによる保護者連絡も必要に応じて実施した。				
	課題と方策	・個人情報に配慮しながら、よりわかりやすくタイムリーな情報発信に努める。				
	教師（学校）	は、通信やホームページ、メール配信を利用して、情報を発信している。				
		(3.09)	3.47 (3.45)	3.32 (3.14)		
風通しのよい職場環境づくり	ハラスメントのない、心身ともに健康で心の通い合った学校づくりの推進	実践目標	体罰・ハラスメント防止研修を行うとともに、注意・相談できる職場づくりに努める。	3.40		
		成果	・ハラスメント研修や自己分析チェックを定期的に行うことで、教職員のハラスメントへの意識が高まった。 ・ほかの先生に気軽に相談しやすい雰囲気・教職員関係のある職員室であった。			
		課題と方策	・生徒・保護者・教職員を問わず、常に人を大切にしたい言動を心掛ける。 ・常に自戒し、互いに注意しあえる教職員関係づくりを進める。			
		教師（学校）	は、授業中に生徒を呼び捨てにせず「さん、くん」つけて呼んでいる。			
			(3.05)	3.16 (3.12)	3.47 (3.14)	
	働き方改革の推進と働きがいのある学校環境づくり	実践目標	定時退勤日、ノー部活デーを適切に設定し、完全実施する。やりがいを持って教育に取り組む。	2.92		
		成果	・定時退勤日には職員同士で声かけをし、早く帰れるように努めた。ノー部活デーはきちんと実施されている。			
		課題と方策	・定時退勤日の設定時刻が遅い。定時を過ぎて職員会議や研修が行われている状況も改善したい。ノー部活デーと定時退勤日を同日にするなど検討する。			
	一人一人の能力や個性が発揮できる教職員の協働体制の確立・情報共有による協働の推進	実践目標	情報共有し協働しようとする組織づくりに努め、一人一人の能力やよさが発揮される学校・学年経営を行う。	3.04		
		成果	・教師同士で仕事を分担し合い、協力合えている。日ごろから生徒の話をし、情報共有しながら学年で役割分担をして指導を心掛けている。通材通所で若い教師にも責任感が育っている。			
		課題と方策	・業務量に偏りがないように校務分掌を検討する。 ・一人一人がまわりの人をサポートしたり、アドバイスしたりする余裕を持って協働できるよう、業務量の調整が必要である。			
			(3.09)			

☆自分や家庭・地域について

() 内は、昨年の評価

	番号	質 問	生徒	保護者
自分について	21	自分（我が子）は、明るくさわやかなあいさつをしている。	3.21 (3.19)	3.06 (3.14)
	22	自分（我が子）は、友達を気遣い、思いやりを持って行動している。	3.46 (3.4)	3.33 (3.35)
	23	自分（我が子）は、学校や社会のきまりを守って生活している。	3.53 (3.51)	3.45 (3.33)
	24	自分（我が子）は、好ましい友人関係があり、楽しく登校している。	3.53 (3.54)	3.50 (3.48)
	25	自分（我が子）は、先生や友達と良好なコミュニケーションをとっている。	3.46 (3.45)	3.34 (3.4)
	26	自分（我が子）は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.23 (3.2)	2.97 (2.89)
家庭地域について	27	家庭では、あいさつや生活態度などについて教えてくれる。 家庭では、しつけや基本的な生活習慣について教えている。	3.40 (3.47)	3.40 (3.32)
	28	家庭では、学校の話をよくしている。	3.26 (3.32)	3.22 (3.3)
	29	地域の人は、私たち（地域の）子どもに関心を持っていてくれると思う。	3.29 (3.33)	3.09 (3.03)
	30	地域と家庭が、協力して私たち（子ども）を育てようとしていてくれると思う。	3.38 (3.37)	3.02 (2.96)